

令和2年度事業報告

新型コロナウイルスの感染が全国に広がり、終息の見込みもつかぬまま1年以上が経過しています。感染予防のために外出制限が呼びかけられ、社会的な活動が制限されるなか、小・中学生の自殺や虐待が増加するなど、すべての世代に深刻な影響を及ぼしています。

このような中、感染拡大による経済活動の縮小により、休業や失業をされた方を対象として生活福祉資金特別貸付を実施しました。生活資金が不足した生活困窮世帯からの貸付相談が1,220件あり、「緊急小口資金」「総合支援資金」の貸し付けは、延べ403件に上りました。

市内においてもクラスター感染が数カ所で発生するなど、予断を許さない状況が続き、第2回理事会は、書面決議で行いました。事務局を預かる各種団体の行事も感染拡大の防止のために中止になることが多く、十分な活動ができませんでした。徳島県シルバー大学校は、年間を通じ、安全安心かつ円滑な開講は困難なため全講座が中止となりました。第53回阿南市社会福祉大会は、会場を阿南ひまわり会館に変更、講演会は中止の上、参加者を被表彰者の代表者に限定して開催しました。感染拡大防止のために、例年同時開催であった阿南市ボランティアフェスティバルは中止といたしました。また、住民主体の地域福祉を推進するために実行している「第2期阿南市地域福祉活動計画」は、5年計画の4年目にあたり、4部会合同研修会の代わりに規模を縮小して、交流部会意見交換会を開催しました。

ボランティア推進センター事業は、各種イベントの中止が続き、ボランティアの派遣ができなかったため、職員を対象とした災害ボランティアセンター設置訓練を実施しました。市民を対象とした行事としては、前年度から準備を進めていた傾聴ボランティア養成研修会を、三密に注意し感染予防を徹底し開催しました。その後、受講生が傾聴ボランティアグループひだまりを立ち上げ活動を始めています。

職員の感染対策としては、県を越えての移動の自粛を、職員に求めるとともに、毎朝の検温と事務所内の消毒、机の上に透明のボードを設置しました。さらに、WIFI環境を整え、研修会や会議の参加は、可能な限りリモートで行いました。

介護サービス事業においては、デイサービスセンター栖竜荘では、換気や検温を徹底、机の配置の変更を行うなど、感染予防に努めました。また、介護職員の人材育成と就労対策のために「介護職員初任者研修会」を開講し8名の方が受講され、うち1名の方が登録ヘルパーとして本会で就業をされています。

阿南ひまわり会館の指定管理事業においては、4月から5月に貸館中止になりましたが、阿南市の指導により、玄関で検温や消毒を行い、貸館を継続することができました。

結びに、ウイズコロナの社会では感染予防と社会経済活動を両立する「新しい生活様式」が求められています。感染予防に配慮しながら、地域福祉の推進に努め、市民の期待に添えるよう、事業運営に取り組んでまいります。